

## 杉 靖三郎先生を偲ぶ

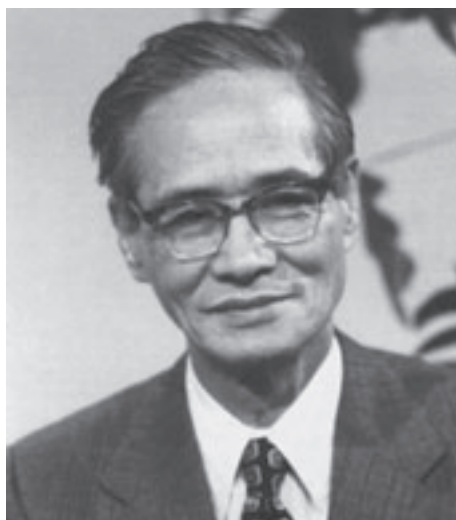
筑波大学体育学部名誉教授

藤田 紀盛

杉靖三郎先生は明治39年1月6日、大阪府堺市で渡辺元吉様の三男としてお生まれになりました。先生の長兄はラジオやテレビで活躍された故渡辺紳一郎さんです。渡辺家は代々漢学者の家柄であり、先生の御尊父は日本銀行の各地の支店長として勤務されましたので、杉先生も日本各地での生活を経験されました。先生は14才の時、御母上の御実家の杉家に養子にまいられ、以後杉姓を名乗ることになりました。杉姓は山陰地方の士族に多く、吉田松陰の実家も杉家であります。

杉先生は仙台の第二高等学校を経て、大正14年東京帝国大学医学部に入学され、昭和4年に御卒業されるとまず医学部付属病院物療内科に入局されました。当時は伝染病、特に結核患者が多く、毎日人間の生と死を目の前にされて、杉先生は医者になることがいかに困難であるかを痛感し思い悩まれました。この結果学生時代に生理学の講義で「医師である前に、人間であれ」と説かれた橋田邦彦先生に師事し生理学を生涯の天職とすることを決意されました。杉先生と御同期でやはり生理学研究を志された方に故本川弘一先生（東北大学学長）がおられます。

杉先生は橋田先生の御指導の下に生理学研究に打ち込まれ、カエル骨格筋の損傷電位の研究、骨格筋の活動電位の導出のための隔絶箱の考案等目ざましい業績を上げられました。特に先生の隔絶箱は現在に至るまで種々の筋肉試料の活動電位導出に広く使用されている separation chamber あるいは sucrose gap 等の実験技法に世界に先駆けて先鞭をつけられた独創的なお仕事であります。当時の生理学会は現在に比して研究者間の論議ははるかに白熱的であり、杉先生はその鋭い頭のは



たらきにより論敵の弱点を容赦なく突かれることで有名であられました。

杉先生の東大生理学教室での骨格筋に関する御研究は思わぬ時勢の流れにより突然中断されることとなりました。まず恩師であり先生が心から尊敬しておられた橋田先生が第一高等学校校長に転出され、ついで近衛内閣の文部大臣に就任されました。橋田先生は東条内閣でも引き続き文部大臣を勤められ、終戦後自決されたのです。この時杉先生も橋田先生に従って文部省に勤務されたため、米軍の指示により公職追放の処分をお受けになり、突如東大を去ることを余儀なくされました。以後公職追放が解除されるまでの6年間、先生は医学書院での学術誌の編集長のお仕事を通して文筆活動に深く関わられるようになりました。

昭和26年8月公職追放解除と共に杉先生は東京教育大学（現筑波大学）教育学部教授に就任さ

れ、研究活動を再開されました。話が少しさかのぼりますが、先生は昭和7、8年頃から東京高等師範学校及び東京文理科大学で講師として生理学、健康教育学の講義、指導を行われ、多くの研究者、教育者を養成されました。この頃の先生の教え子達が先生を教育大学にお迎えすることになったのであります。

私自身の杉先生との御縁は、私が東京高等師範学校の研究生でありました昭和26年4月に故田中英彦先生の御紹介で東大生理学教室に出入りを許され、当時教室に在籍された内藺耕二先生、平尾武久先生、故高木貞敬先生等の実験のお手伝いをさせていただいたことに始まります。さらに翌昭和27年9月私が正式に東大生理学教室の研究生となりました際、教室主任坂本嶋嶺先生から、君は杉先生に指導してもらおうようにとの御指示をいただきました。当時杉先生は東大生理学教室内の一室でも研究を再開されておられました。ここで私は東京高等師範学校の先輩である藤本克巳先生（後に大阪教育大学教授）、深山幹夫先生（後に千葉大学教授）と共に杉先生の指導下に骨格筋の損傷電位等に関する研究を行いました。

杉先生は東京教育大学御在職中に実に多彩な活動を展開されました。まず同大学の国立で唯一の東洋医学の教育機関に於いて、東洋医療の基礎として生理学の刺激と興奮の概念を導入し、鍼灸刺激と生体反応の分析を行われました。私も先生の指導の下にこのような研究に従事いたしました。昭和31年に先生は体育学部の運動生理学教室に移られ、ここでは運動時の神経・筋協調や座禅の生理学的研究、高地環境に於ける運動能力等の研究を行われました。

昭和32年に杉先生はストレス学説の提唱者、ハンス・セリエ博士を我が国に招聘し同博士と肝胆相照らす仲となり、我が国に於けるストレス学説の紹介と普及に努められました。先生の持論は「物理療法は痛を快に転じなければならない」でありました。テレビで民間放送が開局されると、杉先生はテレビドクターとして毎週医学のニュース、例えば福龍丸の放射能汚染等、をとりあげ平易に解説されました。また日本医師会雑誌の編集

委員長を38年の長きにわたって勤められ、時局問題、医療行政、医学教育に関し適確な解説と明快な指針を示しつづけられました。この功績に対し日本医師会から最高優功賞が授与されております。また学術討論会に少し遅れて出席されても、研究者の発表内容を十分に理解されて的確な質問をされ、専門の先生方がどこで細かなことまで勉強されているのかと驚いておりました。昭和44年にはフローレンス（イタリア）に於いて日本医師会代表として「座禅の生理学的研究」に関する講演を行われました。

杉先生は恩師の橋田邦彦先生から「青山」という俳号をいただき、この俳号により多くの俳句、詩、語録を書かれました。また書をよくされ、私は「画餅不充飢」という揮毫をいただきました。先生が執筆された医学の啓蒙書は百数十冊にも及び、この方面でも大きな足跡を残されました。

杉先生は近年近所を散歩され近隣の風物をスケッチするのを楽しみにしておられましたが、一昨年より体調をくずされて入院生活を送られるようになり、本年5月29日午後9時頃、心不全のため96才で逝去されました。御家族の皆様にかこまれて眠るような御最期でした。

今先生の霊に向かい、「空々寂々而百詠現成公案、百尺竿頭進一步、身心脱落而学道心一如」を捧げ、心より御冥福をお祈り申し上げます。

#### 杉 靖三郎 略歴

明治39年1月6日	大阪府堺市に生まれる
大正14年3月	第二高等学校理科乙類卒業
昭和4年3月	東京帝国大学医学部医学科卒業、医師免許授与
昭和4年4月	東京帝国大学付属病院物療内科教室副手
昭和6年4月	東京帝国大学医学部生理学教室に移る（橋田邦彦教授に師事、電気生理学）
昭和7年9月	東京高等師範学校講師（健康教育）
昭和9年4月	東京文理科大学講師（人間生理学）

昭和14年3月	東京帝国大学大学院（電気生理学）卒業，医学博士授与	昭和31年12月	スウェーデンにて電気生理学に関する実験研究
昭和14年11月	東京帝国大学医学部助手	昭和40年9月	世界医師会（マドリッド）に日本代表として出席
昭和15年10月	文部省国民精神文化研究所科学文化部主任	昭和44年1月	世界医師会（フローレンス）にて招待講演（座禅の生理学的研究）
昭和18年2月	文部省教学錬成所錬成官	昭和44年3月	東京教育大学定年退職，名誉教授
昭和19年2月	東京帝国大学医学部講師	昭和44年4月	専修大学文学部社会体育研究所教授
昭和21年6月	GHQ命令により医学部講師解任	昭和46年10月	日本医師会最高優功賞授与
昭和21年7月	医学書院編集長	昭和51年3月	専修大学定年退職（満70歳）
昭和26年4月	日本医師会学術委員長（以後32年間在任）	昭和51年11月	勲三等旭日章授与
昭和26年10月	東京大学医学部復帰	平成元年	日本生理学会特別会員
昭和27年5月	東京教育大学体育学部教授（健康教育学，運動生理学）	平成14年5月29日	逝去 享年96歳
昭和31年9月	世界医師会（ハバナ）に日本代表として出席	平成14年5月29日	正四位に叙される